



3月11日(金)に発生した「東日本大震災」により、被災された皆さま、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。見沼たんぼでも、3月12日に予定されていた「第2回見沼たんぼクリーン大作戦」が中止になるなど、少なからず震災の影響が出ておりますが、今後の状況を見守っていきたくと思います。

見沼たんぼくらぶでは、みぬま通信の本号を4月1日に発行予定でしたが、地震の影響による編集の遅れなどにより、発行が遅くなりましたことを会員のみなさまにお詫びいたします。

みぬまニュース

第79回 見沼塾

『自然を学ぶ講座 - 見沼の巨木』2月20日(日)

見沼たんぼの斜面林とその周辺には歴史のある神社や寺院が見られる。氷川神社の社叢にはタブノキ・ク

スノキ・モチノキなどの巨木が生え、タブノキにはテイカカズラが着生し、白い花を咲かせる暖地性の植生を観ることができる。また、南部領辻には高さ14.5m・



くらしっく館のスタジイ

幹周り4.4mもあるニレ科のムクノキや幹周り2.85mもあるムクロジがある。この実は正月の羽根突きのはねに使われている。その果皮はサボニンという成分が含まれ、石鹼として用いられた。その他、円蔵院にはイチヨウ・シダレザクラがあり、国昌寺にはセンダンバボダイジュ(モクゲンジ)があつて昔はこの実で数珠がつけられた。見沼くらしっく館の庭には幹周り3mのスタジイの巨木(写真参照)があり、かつてはその根元にお不動様が祀られていた。

(講師:齋藤 良夫、参加者15名)

第80回 見沼塾

『和紙を漉く・和紙でつくる』2月26日(土)、3月6日(日)

2月26日(土)はときがわ町で紙漉きを行っている、伝統工芸士・谷野氏の指導のもと、1人3枚の和紙を漉きました。2枚は無地、1枚は秋に採集しておいた紅葉、黄葉、緑葉を紙の間に漉き込んでの体験をしました。

楮をたたき樹皮繊維を細かくくだき、原料を作りトロロアオイの根が持つトロミを加えながら原材料を作りました。フネ(水槽)の中の材料をよくかき混ぜ、簀(す)



紙漉に挑戦

で和紙を漉きました。肘の引き具合と腰を安定させてのバランスが難しく感じられました。

3月6日(日)には乾燥させた和紙を、ランチョンマット、下敷き、菜に加工し、暮らしの中で使うこととしました。



漉いた紙を乾燥させる

さいたま市見沼田圃基本計画が策定されました

さいたま市は平成23年1月、2年間の検討を経て、「さいたま市見沼田圃基本計画」を策定しました。

この計画は、見沼田圃や周辺地域が有する自然環境や田圃の景観、農業施設、地域の歴史文化などの地域の資源を積極的に活用することで、農地・緑地の保全や地域の活性化につなげることを主眼においた地域づくりを目指したものとなっています。(見沼たんぼのホームページより)

「さいたま市見沼田圃基本計画」の冊子は、さいたま市のホームページ、みどり推進課窓口(さいたま市役所8階)、各区役所情報公開コーナーで閲覧できます。

見沼たんぼの四季 『鯉のぼり』

見沼の春の風物詩、といえば真っ先に桜並木が浮かびますが、桜の後、新緑の青空に泳ぐのびやかな鯉のぼりも新たな風物詩となりつつあります。写真は昨年5月、膝子の鯉のぼり祭りです。今年も5月5日に予定されています。

また、合併記念見沼公園で5月7日(予備日8日)に開催予定の「ふれあい祭り」でも楽しめます。見沼の大空を、鯉のぼりと一緒におよいでみませんか?。(高橋)



膝子の鯉のぼり

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

のどかな漂いのさぎ山記念公園

緑区南部領辻に「さぎ山記念公園」がある。昭和30年代、この辺りには「鷺」が集団営巣していた所として知られている。県道105号線(日光御成街道)と見沼代用水東縁との間に挟まれた位置に在り、中央部には芝生広場や釣り池がある。さらに南東端には「さぎ山記念会館」、南西端には自炊やキャンプが体験出来る「青少年野外活動センター」が見沼代用水に沿って配されている。

さぎ山記念館にはパネルや鷺の剥製が展示されており、鷺の賑わう様子が写真等で詳細に解説され、往時を偲ぶ事が出来る。小学生の子供さんたちが10人ほど入館して、熱心にパネルに貼られた説明を読んでいる姿が目を惹いた。芝生広場では若いお母さんたちが二月の陽を浴びて赤ちゃんと遊んでいる。ようやく歩けるようになった赤ちゃんが、ヨチヨチ歩きをしている。時々転んだりしているのが、如何にも可愛い。



さぎ山記念公園の池

釣り池に回ると、周囲を囲む木々は葉をスッカリ落して冬の装いではあるが、隅の方に目をやると、紅梅や白梅が咲いており、柔らかな風に乗せられ、辺りにはかすかな香りが漂っている。防寒服を着、携帯用の椅子に腰を下ろした13、4人もの「太公望」が、陽の当たるあちこちに座っている。皆さん、竿から垂らした釣り糸の先の「浮き」の動きに視線を集中させている。「魚を釣り上げた時の気分は、感無量で最高です。太公望ならではの格別な一瞬です。」と釣を楽しむ醍醐味を話してくれた。70歳に近い市外在住の方は、月に数回、この池に来て楽しんでいるとの事だった。時には鯉や鮒が懸かるが、主に釣れるのは「ヘラブナ」だそうである。

鷺を記念したステンレス製の「モニュメント」が池畔に建っている。見定めると、銀色に輝いた羽を大空に向けて力強く羽ばたいているのではないか。幾羽もの鷺で、どれもが大きな羽をのびのびと一杯に広げている。昔は、このような鷺が、この辺りの上空を群れなして飛び交っていたのであろう。

昔、野田村の鷺の繁殖地の名で「特別天然記念物」等に指定されていたが、その面影がこのモニュメントにも残されている。(召田紀雄)

見沼スケッチ会の展示会を訪れる

見沼たんぼは、四季、色々な風景が楽しめる所である。こうした風景をはじめ、そこに広がる変化や様子を「画」に描き続けている活動団体があり、「見沼スケッチ会」はその一つである。本誌の「見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行」に作品を提供して頂いている八木一郎先生(主宰)が、講師をされている会である。合併記念見沼公園のスケッチり、見沼区片柳にある「旧坂東家住宅見沼くらしっく館」を拠点として、毎月、水彩画の勉強を行っている。



この会の「見沼スケッチ会 第4回水彩画展」が2月1日から6日まで開催された。会場は、さいたま市大宮区高鼻町の氷川参道東側にある「氷川の杜文化会館」であった。茅葺の門構の造りの中に足を踏み入れ、竹林に囲まれた静寂の漂う中の案内路を進むと、その先には本会館の玄関がある。交通渋滞が四六時中起きている市内の中心部に、このような静かな所があると思うと、改めて、心が安まり行くのを感じる。

展示場は本会館の1階にあり、明るい照明に照し出されると、展示されている作品の夫々の輝きは一層の輝きを増してゆくのだった。展示された作品の数は74点、作品の前に立ち止まりゆっくりと鑑賞する。

こちらの画は、屋敷林の中の民家が描かれている。枝葉の生い茂っている状態から判断すると夏の頃であろうか……。柔らかな色合いが、訪れる人の心を静かに包み込み、その現場に自分たちを誘い入れてくれる。画の不思議さと言うか、魔力と言うか……。そのような気持ちに何時の間になってしまう。

あちらの画は、川の流れを描いている。波の立たない静かな流れで、油絵とは違い大分ソフトな感じを受ける。流れに沿って薄い褐色の「芦(あし)」がシュンシュン……と描かれているのではないか。秋の頃になるのであろうか。良く見ると小さな鴨が泳いでいるのが分る。列をなして泳いでおり実に可愛い。のんびりした見沼たんぼが、画面一杯に溢れている。

スケッチ画で見る見沼たんぼは、淡く優しい色で飾られ、見る人の心を温かく包み込むしてくれる。日常の忙しい生活の中から一歩外に連れ出してくれ、心身を癒してくれるのであった。スケッチで見る見沼たんぼは、実に素晴らしかった。(召田紀雄)

見沼たんぼの動植物

－ 見沼たんぼ広がる見沼区のシンボル紹介 －

見沼たんぼ北部の領域は見沼区で占められています。

見沼区では、見沼たんぼの自然を守り育てることを施策の重点としています。

見沼区区民会議は、区民が親しみ守りたい代表的な生き物を区民アンケートをもとに決めています。

見沼区のシンボルの木・花・鳥・蝶を紹介します。

これらは見沼たんぼ北部の代表的な生き物とも言えます。

(NPO法人自然観察さいたまフレンド・小野達二)

見沼区の 木 花 鳥 蝶 親しみ守りたい生き物



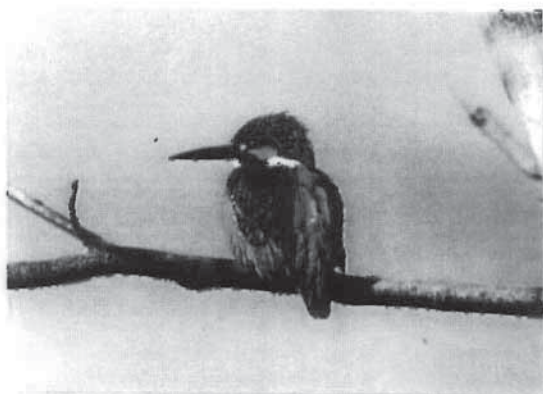
木
サクラ

ソメイヨシノ・ヤマザクラなど花の美しいサクラ亜属の総称。見沼代用水東縁・大宮体育館・各地の公園を彩る。国の花・さいたま市の花木。

花
クマガイソウ



丸い唇弁(しんべん)を武将・熊谷直実が背負う流れ矢を防ぐ母衣(ほろ)に見立てた。大型の野生ラン。御蔵の尾島家のマダケ林に自生する群落は関東一。



鳥
カワセミ

さながら空飛ぶ宝石。雑木林や水辺の土壁に横穴を掘って巣を作る。大和田緑地公園・芝川・深作川でよく見られる。加田屋川、見沼代用水東縁でも確認されている。

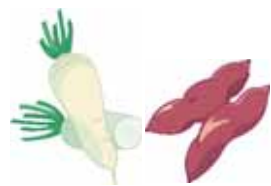
蝶
アゲハチヨウ



幼虫はサンショウやカラタチの葉を食べて育ち、成虫になると花のあるところ何処にでも飛んでくる。親しみやすい蝶。ナミアゲハとも。



見沼たんぼの農家さんのお話



「ファームイン さぎ山」 萩原知美さん

「ファームインさぎ山」の萩原知美さんを既にご存知の方も多いかも知れませんが、さいたま市におけるグリーンツーリズムの先駆者として平成9年から「かあちゃん塾」を開き、農業体験や農的生活を通じて、育てる喜びとそれに伴う苦労、食べ物や自然に対する心を養う総合的体験学習を実践。また農業者として野菜の生産・販売はもちろんのこと、「自然からの恵みである収穫物を余すことなく使いきりたい」との思いから、自家生産の野菜を使った料理を提供する農家レストラン「諏訪野」、さいたま市内や東京都内の学校を対象とした教育ファームを行う等、多彩な活動をされています。



「諏訪野」のコースの最初の一品

農家に嫁いだことから農業に係わることになった萩原さんですが、「なんで農家なんかにお嫁に行ったの?」という友達の一言に一念発起、農業についての勉強を始めます。そんななか、グリーンツーリズムと出会います。ヨーロッパへの視察研修でグリーンツーリズムの巨匠といわれるアンリ・グロロー氏から「都市に近いところでグリーンツーリズムをすることは、地方の活性化にもつながる。あなたは地方への情報発信基地になってください。」という言葉を贈られ、自分の進むべき道を定めます。

農業には人間が生きるのに必要な根源的な知恵や力のもとがあって、それが農家には受け継がれている。その反面、遅れている面があり、それは労働がきついことと、人間関係が狭く何をやっているのかが農業外の人に伝わらないことだと萩原さんはいいます。消費者や農業外の人々、農業のすばらしさ、大切さを分かって欲しい。農業体験を通して、そうした理解者を増やしていきたい。だから一回限りの体験などではなく、種を蒔いたり苗を植えることからスタートし、草取り、収穫までの一連の作業を行います。それに味噌やこんにゃく作り、餅つきや昔の遊び、見沼にまつわるお話などを織り交ぜて総合的な生活を実感してもらいます。

「姑から人としての生き方を教えられた」と語る萩原さん。「農業は年をとっても最後まで自分のやれる仕事がある」、百姓は「百まで女は生きる」、といつも話していたお姑さん。96歳まで草取りをし、動けなくなっても亡くなる数日前まで布団の横で来年蒔くインゲンの種取りをしておられたそうです。

見沼地域は、畑やたんぼはもちろんですが、用水沿いの雑木林などもそのほとんどが私有地で、個人が維持管理しているということをご存知ですか。毎年、カブトムシやクワガタを採りにくる人達によってナラの大木が傷つけられたり、根元を掘られたりして枯れてゆく、という萩原さんに雑木林を案内してもらいました。虫を呼び寄せるためにつけられたいくつもの傷は10センチ以上におよび、樹皮も剥かれています。ついに写真のようにすっかり根が露出してしまった木もあります。



こうなるともう倒れて枯れるしか根が剥き出しになってしまったナラの木と萩原さん

虫をとる一人の行いは小さなことかもしれませんが、それが重なると大きな被害を招く、ということを私たちはもっと自覚する必要があると感じました。

萩原さんはまた「赤山渋」と呼ばれる、見沼地域特産の渋をとるための柿の栽培を継承しています。ふつうの柿渋と違って赤山渋には適度な光沢があり、江戸時代には江戸城にも送られていたそうです。「諏訪野」の建物は萩原さんが敷地内にあった樺、ヒノキ、杉など数種類の木を使って建てたものですが、全体に統一感があるのは柿渋を使っているから、と話されていました。いろいろな素材をその特徴を生かしながら全体として柔らかくまとめ上げる……。それはまさに多彩な活動を総合的にこなしておられる萩原さんその人ではないかと感じました。

ファームインさぎ山
さいたま市緑区上野田 282
TEL : 048 - 878-0459

見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「頭先稲荷（ずさきいなり）大明神」
（緑区・大崎）

大崎公園の裏手にある社。為永翁によって干拓が完成した頃の創建と伝えられる。別名夜泣き稲荷ともいわれ、育児の神様として幼児の夜泣きを治すことでも有名。

写生当日（2月2日）はたまたま初午祭にあたり、氏子の皆さんが忙しく準備をされていた。本祭は7月22日。小さいながらも地域の人々によって大事に護られている。

みぬま通信 会員作品展覧会 ～作品募集のお知らせ～

見沼たんぼくらぶでは、会員のみなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。絵画や写真、クラフト、詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌8ページに掲載の連絡先まで郵送してください。（写真は返却いたしません。）

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合もございますが、ご了承をお願いします。

見沼たんぼの仲間たち No. 19

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

見沼 100 年構想の会

見沼たんぼをユネスコ「未来遺産」に！

見沼 100 年構想の会の発足

さいたま市の東、壮大に広がる見沼緑地。都心からわずか一時間以内でこのような癒しの空間が存在していたとは…。さいたま市民といえども、その価値を認識する人は多くはない現状です。

この貴重な故郷の自然を後世に伝えたいと願う、パノラマ風景画家友利宇景氏と意を一つにしたこの会は、2003年4月、「政令指定都市さいたま」の誕生とともに出発しました。街はそこに暮らす人によって創られるもの。「人づくりこそ街づくり」という理念のもと、この良き地「さいたま」を創造する個性溢れる一人一人を結びつけ、その繋がりを広げてゆく活動をしたくと発足しました。

3つの活動内容

「人と緑が調和した理想都市さいたま」を100年見通す、空飛ぶ鳥のような目をもって見つめ、未来へと向かって人と人を結ぶネットワークづくりをする「見沼100年構想の会」です。

私たちの会はこれまで、主として次の三つの活動を行ってきました。

鳥瞰図「見沼スーパーパノラマ」の制作、頒布。3年半をかけて完成した、埼玉の自然をダイナミックに描いた作品で、私たち会員の意を一つに結びつけてくれるシンボルとなっています。見沼たんぼのPR活動として、埼玉県、さいたま市他、図書館、小学校等500～1000枚が頒布されています。



見沼スーパーパノラマ

小学生への環境講座(「ボランティア大使セミナー」)開催。97名の見沼ボランティア大使を任命して地

域活動サポーター役の分担をお願いしています。

市立芝原小学校児童・父母会との協同で緑区見沼氷川公園(かかし公園)池にいかだ式ピオトープ「とよあしはら」三基を制作設置。



いかだ式ピオトープ「とよあしはら」

「未来遺産」への登録に向けて

その他、2009年7月に「芝川タライ舟下り」を実施。それにより芝川の不法投棄ゴミの惨状を目の当たりにし、同年11月には、そのゴミ回収引き上げ作業を実行。さいたま市、さいたま市教育委員会の後援を得て、地域内小学校、中学校児童及び保護者、市民・ボランティア・企業との協力のもとに3トンの不燃ゴミを引き上げました。また、小学校の「地域総合学習」に呼ばれ身近な見沼たんぼの環境の大切さを訴えています。

今後、日本ユネスコ「未来遺産」への登録に向け、みなさまと共に歩んで参りたいと思います。よろしく願いいたします。



芝川のゴミの引き上げ

「見沼 100 年構想の会」

代表世話人 水野 晶子

さいたま市北区别所町 1127-5

TEL /fax 048-666-8238

浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示活動

① 企画展「さいたま市のあゆみ」

期間：平成23年4月19日(火)～平成23年7月3日(日)
時間：9時～16時30分
内容：誕生10周年を迎えるさいたま市のあゆみを、博物館所蔵の資料で紹介いたします。

2 親子探鳥会

日時：6月11日(土) 9時00分～12時00分
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
内容：親子で見沼たんぼの野鳥を観察。カルガモの親子が見られるかも？雨天時は館内で鳥のお話など。
対象：小学生とその保護者
定員：20組(先着順)
講師：日本野鳥の会埼玉会員
参加費：無料
申し込み方法：6月号「市報さいたま」に掲載

3 三室地区定例探鳥会

日時：4月17日、5月15日、6月19日(毎月第3日曜日) 9時00分～12時00分(雨天中止)
集合：9時に浦和博物館
場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ
主催：日本野鳥の会埼玉支部
参加費：高校生以上1000円、小・中学生500円

浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 探鳥会

日時：4月3日(日)、6月5日(日)、9時～12時
内容：見沼たんぼ内、その周辺の野鳥の観察

② 春の自然観察会

日時：5月1日(日) 9時～12時
内容：民家園周辺の見沼たんぼ及びその周辺の自然観察

③ 子どもの日講座「竹で昆虫をつくる」

日時：5月5日(祝) 10時～12時
内容：竹を使って昆虫を作ります。

④ 染物講座「玉ねぎ染め」

日時：5月29日(日) 9:30～12:00
内容：手ぬぐいを玉ねぎで染めます

⑤ 父の日の講座「竹の靴べらづくり」

日時：6月18日(土) 9:30～12:00
内容：父の日に贈る竹の靴べら作り

旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 主催事業

① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

① 押花で作る額絵	4月14日(木) 14時～16時	10名
② 春の川柳句会	4月16日(土) 13時半～15時半	30名
③ オープン陶土で作る箸置	4月19日(火) 14時～16時	10名
④ オープン陶土で作るぐい呑み	4月20日(水) 14時～16時	10名
⑤ 押花で作るメッセージカード	4月21日(木) 14時～16時	10名
⑥ 新論語教室①「孔子・道元」	4月23日(土) 14時～15時	30名
⑦ 竹細工教室「茶匙」	4月26日(火) 14時～16時	10名
⑧ 竹細工教室「背広の衣紋掛け」	4月27日(水) 14時～16時	10名
⑨ 三味線基礎講座(全2回)	5月1日(日)・11時～12時半 5月8日(日) 13時半～15時	各5名
⑩ 新論語教室②「孟子」	5月14日(土) 14時～15時	30名
⑪ 竹で作るバターナイフ	5月15日(金) 10時～12時	10名
⑫ ステンシルでボードを飾る	5月19日(木) 14時～16時	10名
⑬ 押花を作る	5月24日(火) 14時～16時	10名
⑭ 押葉を作る	5月26日(木) 14時～16時	10名
⑮ ステンシルで木箱を飾る	5月27日(金) 14時～16時	10名
⑯ 新論語教室③「ゲーテ」	5月28日(土) 14時～15時	30名

⑰ 柿渋でうちわを染める	6月8日(水) 14時～16時	10名
⑱ 和紙でうちわを作る	6月10日(金) 14時～16時	10名
⑲ 新論語教室④「ルター」	6月11日(土) 14時～15時	30名
⑳ 押花でうちわを作る	6月16日(木) 14時～16時	10名
㉑ 新論語教室⑤「ガリレオ」	6月25日(土) 14時～15時	30名

② 親子体験講座(定員あり/無料)

ア 見沼をあるく
① 「坂東桜を訪ねて」 4月3日(日) 13時～15時 10組
② 「井澤弥次兵衛を探して」 5月21日(土) 13時～15時 10組
イ 蠟石で何かを作ろう！ 6月12日(日) 14時～16時 10組
ウ 蠟石で作る勾玉 6月18日(土) 14時～16時 10組

③ 公開講座(定員なし/無料)

A いろいろ端で聞く花のおはなし会	4月9日(土)	14時～14時半
B 邦楽鑑賞会	4月17日(日)	14時～16時
C 春のくらしっく寄席	4月24日(日)	13時半～15時半
D 八十八夜の茶粥作り	5月3日(祝)	11時～12時
E よもぎうどん作りの公開	5月5日(祝)	10時半～11時半
F いろいろ端で聞く草のおはなし会	5月7日(土)	14時～14時半
G さなぶりのけんちん汁	5月22日(日)	11時～12時
H 食育講座「昔のくらし・飢饉の食事」	5月29日(日)	11時～12時
I 季節の行事「講話：衣脱ぎの朔日」	6月1日(水)	14時～14時半
J 計量記念日「講話：度量衡の話」	6月7日(火)	14時～14時半

2 企画展示

「一寸おめかし 被る・纏う・履く」 4月1日(金)～5月29日(日)
「願いと祈り」 6月1日(金)～7月9日(日)
※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

① 羊の毛刈り

期日：4月17日(日) 11時～12時30分
会場：さいたま市大崎公園内子供動物園
対象：中学生以下の子供、先着100名
内容：原毛を加工し、マスコットや記念カードを作る

② アグリフェスタ'11

期日：5月4日(火)・5月5日(水)
会場：緑の広場(農業者トレーニングセンター内)
内容：農産物の直売、山野草の展示、ステージショーなど

大宮第二・第三公園管理事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605
開館時間：8時30分～17時
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

ポタニカルアート合同展	4月5日(火)～4月10日(日)
第16回えびね展示会	4月19日(火)～4月24日(日)
春の山野草展	4月22日(金)～4月24日(日)
山野草鑑賞会	5月3日(火)～5月5日(木)
押し花作品展	5月9日(月)～5月15日(日)
スクラップブックング	5月17日(火)～5月22日(日)

2 イベント ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

なし

見沼たんぼくらのイベント案内

平成 23 年度見沼たんぼくらぶ総会

皆さまの出席をお待ちしています!

日 時：4月17日(日) 10時

会 場：市民の森 見沼グリーンセンター2F 中会議室

交 通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩6分

※市民の森には、リスの家(シマリスの住処に入る)や展示温室(様々な熱帯植物の間を歩く)など楽しい施設があります。総会の前や後に見学されるのも面白いと思います。

第 45 回自然観察ハイキング

『見沼の自然と史跡を訪ねてー見沼たんぼから盆栽村へ』

総会と同日に開催します!

日 時：4月17日(日) 13時~16時

集 合 地：市民の森正門(見沼代用水西縁・川島橋向)

内 容：自然観察指導員のガイドで、春の七草はじめ湿地や草原の野の花を観察し、その後、盆栽村を見学します。

コ ー ス：市民の森⇒芝川⇒見沼2丁目田圃⇒見沼代用水西縁⇒大宮盆栽美術館 ⇒盆栽緑地公園 ⇒清香園⇒盆栽四季の家⇒漫画会館⇒大宮公園駅前

申 込 み：当日、集合地で12時30分から受付

参 加 費：¥500(会員は¥100) *入館料を含む

持 物：雨具、筆記具

交 通：JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩6分

問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

市民団体のイベント案内

自然観察ハイキング

『斜面林のキンラン・ギンランと見沼たんぼの春の七草』

日 時：4月29日(金・祝) 9時~12時

集 合 地：東武野田線大宮公園駅前

主 催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

内 容：自然観察指導員のガイドで、見沼1丁目の春の七草はじめ湿地と草原の野の花を観察し、大和田緑地公園特別緑地保全地区・斜面林の絶滅危惧種ーキンラン・ギンラン・シュンラン・ワニグチソウを観察します。大宮公園解散。道程は約6km。

申 込 み：当日、集合地で8時30分から受付

参 加 費：¥500(中学生以下は無料)

持 物：雨具、筆記具

問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

見沼の自然ふれあいウォーク

日 時：5月7日(土) 13時~16時

集 合 地：合併記念見沼公園

主 催：セントラルパーク市民協働会議

内 容：合併記念見沼公園や新右エ門新田で野の花や鳥を見て歩き、大宮南部浄化センターで自然庭園とみぬま見聞館を見学します。

申 込 み：当日、集合地で12時30分から受付

参 加 費：500(中学生以下は無料)

持 物：雨具、筆記具

交 通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点下車、徒歩2分(自治医大南側)、大宮発12時 or 12時30分(約10分乗車)

問 合 せ：TEL(048) 683-1764・小野

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください! 「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう! 年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/